

ID	
氏名	
年齢	
科名	病棟

IFM+ADR療法

4 ~ 6週毎 コース予定

疾患名 軟部肉腫

主治医

指導医

HBs抗原()、HBs抗体()、HBc抗体()

スケジュール

		day1	day2	day3
イホマイド(イホスファミド)	2.5 g/m ²	↓	↓	↓
ドキシソルビシン	20 mg/m ²	↓	↓	↓
ウロミテキサン(メスナ)	2500 mg/m ² ×0.2	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓

【注意】 * 1日の尿量が3000 mL以上になるように化学療法開始前日より輸液を行う。

* 必要時、補液にメイロンを混注して尿量を確保する。

* イホスファミド投与時は出血性膀胱炎予防目的でメスナを点滴する。

メスナの1回投与量は、イホスファミド1日投与量の20%量とする。

メスナの点滴は、イホスファミド投与開始時、4時間後、8時間後の3回行う。

* ドキシソルビシンの総投与量は500mg/m²を超えないこと。

通常量より減量する際の理由

(レジメン)

Day 1 抗がん薬投与1時間半前にアプレピタントカプセル 125 mg 1C 内服

- ① 生食 500 mLで血管確保 維持(20 mL/時間)
- ② グラニセトロン注 3 mg + デキサメタゾン 9.9 mg + 生食 100 mL
点滴静注30分(200 mL/時間)
- ③ イホマイド + 生食 500 mL
点滴静注180分(167 mL/時間)
- ④ ウロミテキサン
側管静注 イホスファミド開始時(1回目)
- ⑤ ドキシソルビシン + 生食 50 mL
点滴静注5分(600 mL/時間)
- ⑥ ウロミテキサン
側管静注 イホスファミド開始4時間後(2回目)

⑦ ウロミテキサン

側管静注 イホスファミド開始8時間後(3回目)

⑧ オランザピン 5 mg 1錠 1×夕 内服(※糖尿病患者は禁忌)

Day 2-3

① 生食 500 mLで血管確保

維持(20 mL/時間)

② グラニセトロン注 3 mg + デキサメタゾン 9.9 mg + 生食 100 mL

点滴静注30分(200 mL/時間)

③ イホマイド + 生食 500 mL

点滴静注180分(167 mL/時間)

④ ウロミテキサン

側管静注 イホスファミド開始時(1回目)

⑤ ドキソルビシン + 生食 50 mL

点滴静注5分(600 mL/時間)

⑥ ウロミテキサン

側管静注 イホスファミド開始4時間後(2回目)

⑦ ウロミテキサン

側管静注 イホスファミド開始8時間後(3回目)

Day 2,3 アプレピタントカプセル 80 mg 1C 1×朝 内服

Day 2-4 オランザピン 5 mg 1錠 1×夕 内服(※糖尿病患者は禁忌)

Day 4, 5 デキサメタゾン 4 mg 2錠 2×朝昼 内服

	コース			コース		
	day1	day2	day3	day1	day2	day3
月日	/	/	/	/	/	/
イホマイド 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ドキソルビシン 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
確認						

	コース			コース		
	day1	day2	day3	day1	day2	day3
月日	/	/	/	/	/	/
イホマイド 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ドキソルビシン 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
確認						

	コース			コース		
	day1	day2	day3	day1	day2	day3
月日	/	/	/	/	/	/
イホマイド 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ドキソルビシン 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
確認						

	コース			コース		
	day1	day2	day3	day1	day2	day3
月日	/	/	/	/	/	/
イホマイド 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ドキソルビシン 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
確認						

	コース			コース		
	day1	day2	day3	day1	day2	day3
月日	/	/	/	/	/	/
イホマイド 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ドキソルビシン 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
確認						